

2012 Formula Nippon
Project μ /CERUMO・INGING Race Report
第5戦 ツインリンクもてぎ

◆ 8月5日（日） 決勝

#38 平手 晃平 8位 / #39 国本 雄資 10位

< 決 勝 > 天候:晴れ | コース状況:ドライ



前日の公式予選では平手は Q3 に進出し 7 番グリッドを獲得、一方国本は予想外の 15 番手で Q1 敗退と明暗の別れる予選結果となった Project μ /CERUMO・INGING。相変わらずの晴天となった日曜のツインリンクもてぎを舞台に、52 週の長丁場の戦いとなる決勝では、是非とも 2 台揃っての上位入賞を期待したいところだが、予選終了後には平手、国本ともに決勝に向けてはさらなるセットアップの熟成が必要と認めているだけに、決勝に向けたセットアップ調整の最後のチャンスとなるフリー走行は重要な意味合いを持つ。気温 32℃、路面温度 45℃と早くも暑くなった午前 8 時 50 分のセッション開始と同時に、

Project μ /CERUMO・INGING の 2 台の FN09 はコースへと飛び出して行く。

まずアウト&インでスタート練習を行った平手同様、国本もアウト&インをこなし、2 台はその後計測ラップに入ると、まず平手は 1 分 39 秒 200 までタイムを上げて 3 周でピットイン。一方の国本はさらに 1 周を追加し 4 周で 1 分 39 秒 062 としてピットに戻る。

ここで若干のセットアップ修正を行った 2 台。平手は午前 9 時 05 分にピットアウト、国本もその 1 分後の午前 9 時 06 分にコースに戻ったが、この時点では国本 14 番手、平手 15 番手という状況。しかし、ここからロングランに入った平手と国本は、安定したラップを刻んで行く。その中で平手は 6 周目に 1 分 38 秒 342 をマークして 6 番手、国本は 7 周目に 1 分 38 秒 347 で 7 番手につけるなど、2 台は切磋琢磨するかのように拮抗したタイムで周回を重ねて行く。

最終的には 1 分 39 秒台にタイムが推移する中、ピットに入ること無く周回を重ねた平手と国本は、午前 9 時 20 分にチェッカーを受けるとスタート練習をこなして帰還。このセッション、平手は 9 番手、国本は 10 番手ながら、決勝への手応えを感じることもあった。

迎えた午後 1 時 15 分、いよいよ決勝に向けたスタート進行が始まった。8 分間のウォームアップで平手は連続周回を行い、国本は決勝で使用するニュータイヤの皮むきをこなすと、それぞれいったんピットイン。改めてダミーグリッドへと向かう Project μ /CERUMO・INGING の 2 台。

照り付ける日差しの中、ふたりのドライバーは徐々に集中力を高めて行く。気温 34℃、路面温度 50℃という暑さの中、いよいよ午後 2 時 03 分に 52 週の決勝レースがスタートした。

7 番グリッドの平手、そして 15 番グリッドの国本はまずまずの動き出しを見せたものの、密集の中で思うようなポジションアップは

果たせず。逆に平手は1コーナーで伊沢拓也の先行を許し、1周目は平手8番手、国本15番手で終えることに。そこから平手は前を行く伊沢を、同じく国本は中嶋大祐を追っての走行が始まったが、抜きどころが少ないことで知られるもてぎだけに、両者ともになかなか前車に仕掛けることが出来ず、コンマ数秒差のまま一列縦隊となってしまう、拮抗した攻防が続く。

それでも国本は、6周目に山本尚貴がトラブルでスローダウンしたことで14番手とするも、ニュータイヤでスタートしペース的には上回るもののなかなか思うようにポジションを上げられないことから、立川監督以下チームの判断で早めのピットインで空いた状況でプッシュする作戦に切り替え、19周終了時にピットへと呼び戻す。

スタッフの迅速な作業で皮むきを終えてあるニュータイヤに履き替えた国本は、ピットアウトすると猛プッシュ。22周目には1分38秒812という、その時点でのファステストラップを刻むなど、前が空いているところでハイペースで周回を重ねて行く。



一方平手はこの頃から始まったライバル勢のピットインによって、じりじりとポジションを挽回。21周目に7番手、22周目に6番手、23周目に5番手、24周目に4番手と、文字通り周回毎にポジションを上げて行った平手は、ついに27周目にはトップに浮上することとなり、国本同様前が空いた状態となったことで、1分39秒台にペースアップする。

ところが、このあたりで平手のステアリングモニターに燃料の温度上昇を知らせる警告が表示される。すぐに大きな問題となるわけではないものの、この暑さの中、ピット作業を終えてリスタートする際、パーコレーションなどの予期せぬトラブルが起こらないとも限らないため、チームは平手のピットインを少し早めることとし、平手を29周目にピットインさせる。

ここでも迅速な作業を終えたProject μ /CERUMO・INGINGのスタッフたちは、平手を8番手あたりでコースに復帰させるが、この時点で先にピットを終えていた国本も11番手と、戦略が奏功してポジションを挽回。さらに31周目に小暮卓史がドライブスルーペナルティを消化したことで、国本は10番手に浮上、ポイント圏内まで後少しという状況となった。

しかしながら、やはりレース後半も拮抗した展開となってしまうProject μ /CERUMO・INGINGの2台はそれ以上のポジションアップは果たせず。39周目には1分38秒767のベストラップをマークも平手は8位、国本は10位でのチェッカーとなった。

惜しくも2台揃ってのポイント獲得は果たせなかったProject μ /CERUMO・INGINGだが、平手が8位に入賞し1ポイントを獲得したことで、チームとしてポイントゲッターはこれで3戦連続。安定感の増したProject μ /CERUMO・INGINGだけに、次戦菅生では、さらなる好成績を狙いたいところだ。



ドライバー／#38 平手 晃平

「スタートが上手く行かなくて、1 コーナーまでに伊沢選手に先行されて。それでポジションをひとつ落とす形で 1 周目を終えたんですが、結果的に淡々とした展開になってしまったというか、みんな競り合いの中で前のマシンに 1 秒差くらいに近づくとダウンフォースが抜けてしまってオーバーテイクを仕掛けられるくらいまで行けない状態でした。僕のクルマの状態は悪くなかったのでタイヤを温存しながら走っていたのですが、ずっと前に詰まっている格好だったので僕も早い段階でピットに入りたかったものの、予想より前のマシンが先にピットインしたので、そのまま残ることになって。トップに出た時には良いラップも刻めていたんですが、燃料温度の警告が出たので結果的には予定より早めに入ることになりました。2 セット目のタイヤは最初より内圧を少し調整してもらい、かなりバランスが良かったのでポジションを上げられそうではあったんですが、やはりもてぎは抜くところがなくて。しかし、それでもポイントを獲得出来ましたし、このところ良い流れが来ているので、次の菅生にしっかり準備をして臨みたいですね」

ドライバー／#39 国本 雄資

「スタートは上手く行ったのですが、行き場が無くてポジションを上げられず、ずっと中嶋大祐選手の後ろを走っていたんですが、やはり前に近いところにクルマがあると、ブレーキが厳しくなるし空力的にもつらいので、ペース的には僕の方がはやかったもののこう着状態になってしまって。それで早めにピットインすることにして、その後数周タイヤの良いときにブッシュして順位を上げようという作戦だったのですが、それが上手く行って少しポジションを上げられました。しかし、終始クルマのバランスがリヤの方がナーバスで、ターンインでオーバー傾向があったのでちゃんと攻め切ることが出来なかったように思います。とても暑かったですし、かなり厳しいレースになってしまったと思います。今回は 10 位でポイントには届かなかったのですが、次の菅生は結構好きなサーキットなので、今課題になっている予選で Q3 に食い込めるようにクルマをもう少しレベルアップして行きたいと思います」



監督／立川 祐路

「抜きどころのないもてぎということで、結果的に 2 台共に渋滞にはまってしまったというか、抜けないですね、ここは。周りもそうかもしれませんが、ペース的には良くても 1 秒くらいの間隔に近づくとダウンフォースが抜けて厳しくなってしまうので、仕方の無い部分かもしれません。ピットの作業に関しては、今回大きな問題もなく良かったと思いますし、平手が 8 位に入ってポイントを獲得してくれたということで、チームとしての安定性も良くなっているといえるでしょう。国本にしても、結果は 10 位でしたが、予選順位がもう少し前ならば、普通にポイントが獲得出来ていたはずですし、やはりさらに上位を目指すならば予選順位を改善する必要があります。そのあたりが菅生での課題となるでしょうね」